



カタツムリの
壳は
右巻きが
多いんだよ

はぐ便利

2025年
6月号
【第120号】



「お金の教育」と聞いて、「自分の子にはまだ早い」、「何を教えればいいのか？」などと考える方も多いと思います。一方、お金の教育を始めやすい年齢は、子どもが様々なことに興味を持ち始める4歳ごろと言われています。キャッシュレス決済が当たり前となり、現金を使う機会は段々少なくなっていますが、お金の大切さを学ぶことは、子どもの将来に関わる大切なことですよね。幼児期からの「お金の教育」について、考えてみてはいかがでしょうか。



1. お金の教育が必要な理由

① お金の大切さがわかるようになる

家族が働いて得たお金が、家族の毎日の生活を守っています。お金は、自然に湧き出てくるものではなく、限りあるものということを理解できれば、今あるものを大事にしようという気持ちも育つことでしょう。

② 数の概念がわかるようになる

実際にお金に触れながら、「1円玉が10個で10円」、「50円玉1個と10円玉5個で100円」というように、数の成り立ちや計算を体感的に学ぶことは大切なことです。幼少期からのこのような経験は、小学校での算数の学習にも役立ちます。

③ トラブルを避けられるようになる

最近では、子どものゲームへの課金が問題になるなど、キャッシュレス決済が普及したことで目に見えないお金のトラブルが増加しています。お金の流れや価値を知ることによって、トラブルを避けられるようにしましょう。



2. 家庭でできるお金の教育

① 一緒に買い物に行く

「実際にお金を払う」、「同じ品物でも安い方を買う」、「日によって値段が変わることを知る」など、店頭には、お金の教育となる材料がたくさんあります。

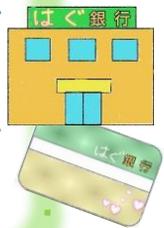


② お店屋さんごっこをする

ままごとで使う食品や手作りのお金を使って楽しんでみてはどうでしょう。年齢や理解度に合わせ、品物に値段をつけたり、足し算や引き算を体験したりすることもよいですね。

③ 貯金をする

幼児期は貯金箱を準備し、小学校入学後は銀行口座を開いて、お金を貯める経験をさせましょう。お年玉をもらったときは、使い切るのではなく何割かは貯金に回すなど約束しておくといいでしょう。



④ 家族の仕事の話をする

家族が働くことで毎日の生活を支えていることを知るだけではなく、将来、仕事に就き、お金を得て生活していくというイメージが伝わります。

ポイントに
ついでつられ
買いまくり

